

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2190200143		
法人名	(有)アイシン		
事業所名	だいこんの花肥田瀬		
所在地	岐阜県関市肥田瀬2719番地1		
自己評価作成日	平成27年10月6日	評価結果市町村受理日	平成27年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=ion_kouhyou_detai_2015_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2190200143-00&amp;PrEfCd=21&amp;Versi.onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=ion_kouhyou_detai_2015_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2190200143-00&amp;PrEfCd=21&amp;Versi.onCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成27年11月19日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者の自己選択、自己決定を日々の生活の中での最重要点とし、職員はそれに沿ったケアに取り組んでいる  
また、事業所内に閉じこもることのないように、週3回の買い物にはできるだけ多くの方が行けるようにお誘いしている

老化が進み、できていたことができなくなった現実には職員だけが受け止め、利用者様には支援を受けながらもできる事をやっていただき、日々活力を持ってもらえるように担当職員が毎月のミーティングでよく考えている

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者のその人らしさを尊重したケアを提供する為に、できる事ややりたい事が実現できるような支援をしている。日常生活のなかで、利用者の意欲が向上するように日中活動やレクリエーション等で自分らしさを発揮できる場面を工夫している。利用者が縫った雑巾を使い、行事で撮った写真を自分用のアルバムとして楽しめるようにしている。ケアプラン評価表で詳細なモニタリングを行い、その人らしいケアにつなぐプランにしている。利用者個々に個別の外出計画を作成し思いを叶える支援をしている。希望に合わせて、歯科衛生士の口腔ケアや歯科医の訪問診療も利用できている。職員は「ミーティング事前所見」にて要望や意見を事前提出し、課題を検討しやすくする工夫をしている。職員が笑顔を絶やさず、利用者のケアに努力している事業所である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念である「明るく家庭的な雰囲気の中でその人らしさを大切にしましょう」が日常生活中ではぐくまれるよう日々の関わりを大切にしながら業務にあたっている	ミーティングで理念に基づいた介護が提供できているか全職員で確認している。日常生活のなかで利用者のペースを尊重した支援をしている。職員は笑顔を保ち、楽しい雰囲気づくりに心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時の地域の方への挨拶、隣の喫茶店、近隣の理美容院を利用している 事業所で行う流しそめんや忘年会の交流はあるが、地域行事への参加はしていないので、今後、自治会行事へ参加し、交流を深めたい	職員が行事案内を、地域婦人部の役員に直接手渡ししてもらうよう声かけしている。大正琴・三味線・音楽療法等のボランティアや幼稚園児が来訪し、利用者で交流している。寺への散歩や買い物時に住民と挨拶している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に行っていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事等の実施報告、予定連絡など、または外部評価のあるときには経過報告を行っているが、それに対する意見などは聞いていない	多くの家族に参加してもらう為にアンケートをとり、日程を決めている。地域の自治会長・民生委員・福祉委員も参加し、事業所の現状を伝え理解を深める努力をしている。併設の小規模多機能事業所と合同で開催している。	系列の事業所のみならず、地域委員への負担を配慮しての開催ではあるが、事業所ごとでの時間をつくり、意見が出やすい工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から市町村とは常に関わり合い、最新の情報を得るようにしている また、運営推進会議にも参加していただき、こちらの様子等伝え、意見をいただいている	担当者に実情を伝え、運営についての相談に出向いたり、電話で意見を聞いたりしている。市が主催する会議に職員が参加し、情報交換したり困難事例の助言を得たりして相談できる関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルを事業所として作成し、日頃から職員同士で「これは拘束に当たらないか」確認し合いながらケアに取り組んでいる 玄関の施錠は夜間のみである	玄関は施錠せず、居室からベランダにも自由に入ることができるようにしている。利用者が屋外に出た場合は、職員が付き添い話を聞いたり、一緒に散歩したりしている。言葉などにも気をつけ、ミーティングや申し送り時にも話し合い、拘束しないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束と同様、虐待についてもマニュアルを作成し、ミーティング等でも常に管理者・職員で話し合い、防止に努めている		

だいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護に関する制度を利用されている方がいないため、制度の理解をしている職員は少ない 今後は学ぶ機会を作っていただき、または個人的にも勉強していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書・重要事項説明書を1つ1つ読み上げ、確認をとりながら説明を行っている 不安な点や質問に答え、家族の理解を得た上で署名等をいただき契約につなげている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日頃から信頼関係が築けるよう会話を多くしその中で出る意見を見逃さないよう努めている 家族とは来訪時に意見・要望等うかがい、利用者の生活や運営に反映させている	家族が事業所へ来訪時は、職員が必ず声かけし意見が言えるように聞いたり、居室で利用者と一緒に、ゆっくりと意見を聞く場合もある。月1回近況報告の手紙を担当者が書いて、要望が出やすくしている。家族の意見は職員に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティング時で、またはそれ以外のいつでも職員の意見や提案は出せるよう、聞く機会を設けている。またそれを検討し反映させている	毎月のミーティング時に「ミーティング事前所見」にて職員から出た意見や要望を話し合っている。職員同士は何でも言いやすい雰囲気があり、日常業務のなかで出た意見でも、できることは取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭事情を配慮しての勤務、労働時間を考えている また代表者・管理者は日頃から現場に入り、職員にも声をかけられ、意見や気持ちがいえる関係を築いている 休憩が取りづらい環境である		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を口頭や紙面にて行っている また一人一人のケアの実績と力量を把握し、その人にあった研修も勧めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大学が主催する市のグループホームの運動会に参加する等、交流できる機会があれば参加し交流を行っている 介護支援専門員は地域の研修に参加し、ネットワークづくりに活かしている		

だいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の情報であるセンターシートを活用しながら、その方の思いを傾聴・受容することで信頼関係を築き安心して生活していただけるよう努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の思いと並行して、家族の思いにも耳を傾け、ここでの生活に不安がつかないように、面会時や電話等で利用者の日常の様子を報告し、信頼関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階でまずどのような支援がその方や家族に必要なのか、聞き取り等から見極め支援に繋げている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般を利用者と一緒に行い、時には知恵を出していただき、日々の活動でよい関係が築けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には生活状況や利用者の口にされる思いをお話し、本人様にとって一番よい支援は何か常に考え、共に支えていく関係を築けるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所はセンターシートや日々の会話の中から把握し、その方の来訪時には気楽に面会していただけるよう努めている また場所については、時々個別計画を作成し実施をし、関係性が途切れないよう努めている	お茶の師弟関係であった生徒の自宅まで散歩に出かけ、話をしたりお花をもらったりしている。馴染みの商店での買い物や美容院・喫茶店等に行く支援をしている。親族に来訪をお願いし関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や関係性を把握し、利用者同士がなるべく関わって色んな作業に取り組み、楽しい雰囲気の中過ごしていただけるよう努めている 職員が間に入り、会話の橋渡しをし、一人一人が孤立しないよう支援している		

だいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	どうしても契約が終了するとその後の関係は続くことはできていないが、契約終了時には何かあればいつでもご相談下さいとの言葉はかけている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話から、希望や意向の把握に努めている 言いにくいことも出していただけのような雰囲気・関係作りにも努めている	利用者に意向を聞く時は、できるだけわかりやすく具体的な聞き方の工夫をしている。利用者の動きを見逃さず、希望や思いを推測して聞いている。本人のペースを尊重し、あわてさせずゆっくりと聞く努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前に家族に記入していただいたセンターシートにて把握するよう努めている。わからない点や知りたい情報についても、家族に面会時等で聞くよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の介護記録、バイタルチェック表等で一日の様子や変動の把握に努めています。有する力についてもできることできないことを常に見極めながらの支援に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様それぞれに担当者をつけ、ケアマネージャー指導の下、モニタリングを行っている 家族のとはケアマネージャーが直接話をするこも、担当者が話をするこもある 計画内容は必要に応じて変更している	利用者や家族の希望を聞き、医師の意見も踏まえて計画を作成している。ケアプラン評価表で現状の課題や本人の希望・担当としての思い等を詳細にモニタリングしている。体調変化時等は都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	施設独自の記録用紙を使用して、いつでも改編ができるようにしている。そのとき、その人の状態にあった記録用紙を使用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族とも話しをし、本人のニーズを中心に、家族のニーズも把握しながら、入所前の生活ができるだけ継続できるように介護サービス以外の部分でも支援している		

だいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族の協力の下、自宅への一時帰宅なども計画して行っている できる事は安全を確保した上で支援しながらもできるような場面作りを行っている 頼られることで生き生きとした表情がみられるようになった		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医は設定しているが、入所前からのかかりつけ医を変えることはせず、そのまま関係を保ってもらっている	入居前からのかかりつけ医を継続している利用者が多く、体調に合わせて訪問診療や専門医も利用している。受診時は家族に日頃の様子を伝え、受診後に報告を聞いている。家族に代わって職員が付き添う場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護師はいないが、併設施設に看護師がいるため、普段から声をかけ、適切な初動体制がとれるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が決まった時点で、できるだけ早く病院相談員に経過を聞き、現状、退院のめど、退院後の生活についてなどを確認し、受入体制を整えている 受入が難しい方には病院相談員とともに家族に報告をし、家族や本人が困らないようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアについては現在行っていない 今後は、職員のスキル、事業所の体制によって決めていきたい	入居時に事業所の方針を伝え、重度化した場合は、医師の助言も踏まえて家族と、その都度話し合っている。食事形態を変えたり水分にトロミをつけたり、栄養剤の補食など事業所でできる範囲の支援をしている。医師の指示で点滴を受ける場合もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、マニュアルを参考にしている また、11月の避難訓練時に、救急要請訓練も行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回、避難訓練を行っている 地域の方も声をかけているが、なかなか出ていただけていない現状がある	夜間想定避難訓練時は、消防署の助言を得て利用者の誘導順を決めて、一人の職員で対応する訓練を行っている。オムツ・米・毛布等を備蓄し、保存食も検討中である。住民に協力を依頼しているが協力が得られていない。	隣接する商店の住民や利用者家族に協力を依頼するなど様々な機会に更なる働きかけを期待したい。

だいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩と思いをもち続け、羞恥心を与えてしまわないよう、十分配慮している また、言葉にも気を付け、他の方から聞かれても問題の無い言葉で、入居者様に理解していただきやすい言葉を使っている	失礼のない言葉遣いを特に注意し、利用者の呼称にも配慮している。排泄の声かけは、他の入居者に気づかれないように小声で対応している。居室に入る時は、必ずノックし了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	施設長からいつも「自己選択自己決定」の大切さを胸にそういう場面があれば本人様の意見を第一に決定している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームとして特に決まった時間に決まったことをすることを少なくし、本人のペースで過ごしていただけるようにしている また、10:00のお茶の時間に雑談の中で今日一日何をしようかと入居者様と相談することもある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には着る服も本人に選んでもらっている 認知症の進行によって自己選択、自己決定が難しい方に関しては、職員が支援し、おしゃれをして喜びを感じるということも感じていただけるようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	あらかじめ、メニューは決まっているが、入居者様にも食べたいものを聞いて、簡単にメニュー変更ができるようにしている また、特に女性入居者様に関しては調理から後片付けまでその人ができる事を職員と協働している	調理に携わりたい利用者が多く、まな板や包丁を購入しできる事を支援している。職員も一緒に食事をとり、食材や調理法について会話が弾んでいる。おはぎ・饅頭・鬼マン作りをしたり、外食や弁当をとったりして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事に関する情報をミーティングや普段は上司、同僚に話し、その人に合った食事を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分で行っていただいています 確認が必要な方は確認をし、自分でできない方は職員が支援している		

だいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、パターンの把握、声かけを行っている 急に布の下着から紙パンツへ移行せず、できる限りトイレでの排泄ができるよう支援している	利用者の行動をそっと見守り、時間を見計らい声かけし自立への支援をしている。外出時のみ紙パンツを使用する人もいる。入居時に紙パンツだった人もトイレ誘導し、布パンツで過ごせるようになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と連携し、下剤と整腸剤を使用することができるだけ下剤を飲まずに自然排便ができるよう食事にも気遣っている 整腸剤を服用している方には服用マニュアルを作成している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴する方の目安は決めてはいるが、毎日はいりた方にはそのように声をかけている 入浴時間は職員の勤務時間に合わせさせていただいており、入浴についての手順が必要な方にはマニュアルを作成している	湯温や入浴時間の希望を聞き、毎日入浴する利用者もいる。職員が誘導から着替えまで1対1で介助し、ゆっくりと話したり歌を歌い楽しみな時間に行っている。道の駅の足湯に出かけたり、足浴の希望も叶えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣は大切にして昼間に休んでいただいている方もいるが、昼夜逆転してしまう方もおられるため、夜にぐっすり寝られるよう声をかけて起きていただくこともある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に最新の薬剤情報を備え付けており、すべてを覚えることはできないが、薬に関する情報がすぐにわかるようにしている 服薬支援として、Wチェック、服薬介助を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	活躍できる場所や場面をつくっている ただ、毎日必ず何かがあるわけではないため、普通の日常生活を送りながら入居者様全員がどこかで生活に張りがでるようなことを行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出はいつでもできるよう家族にも本人にも伝えられている 月行事で外出したりもしているが、家族が迎えに来てくださり、外出することが一番喜んでおられます	好天時は職員が外出に誘ったり、利用者の希望で出かけたりしている。近隣の散歩や食材・日用品の買い物に日常的に外出している。外出計画のなかにドライブを入れ、昭和村・道の駅・花見等に出かけている。個別の外出計画を作成し、希望に合せた支援をしている。	

だいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人持ちで持っている方には買い物～支払いまですべてご自身で行ってもらっています 他の方については、外出した際には職員がお金を持ち、自分で支払いができるような支援方法をとっています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも利用できるようになっていて、本人様と家族が話すこともあります 家族とは電話ができていますので、友人、遠縁の方などへの手紙なども今後支援していきたい		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に派手にしたりせず、自然の柔らかな雰囲気でも過ごして頂けるようにしている	空気清浄機や加湿器を設置し、室温や換気に注意して気持ちよく過ごせるようにしている。 居間のソファやイスに腰掛け、新聞や雑誌を読んだりTVを見て自由に過ごしている。利用者が作った手作りカレンダーを掲げ、季節の絵柄の手拭いを額に入れ飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファエリア、食卓エリアのほかに椅子だけのエリア、玄関など一人になれたり、仲の良い方同士でいられるスペースを作って使っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に居室の中の物については本人と家族に任せている	自宅で使用していた寝具類とダンスやTV・ラジコ等を置き自分の部屋としている。家族の写真や作品を飾ったり、衣類や帽子を掛けたりして寛げるようにしている。ベランダから出て布団を干す利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ職員が手を出すことのないように歩行も手すり、椅子、ソファなどを使って自立歩行ができるように工夫している		